

紀南教会瓦版

発行所
紀南キリスト教会
紀南教会瓦版
編集委員会
和歌山県田辺市
下屋敷町80
TEL/FAX
0739-25-1191



今冬は大変厳しい寒さでした。皆さんの地方では如何ですか。雪には縁がないこの地にも雪が積もりました。北海道や東北の方達から見ると何て事のない積雪だと思えますが、南紀人には豪雪?の様に思いました。暖かい日まで、後一息。「自愛下さい」編集員一同

自信の無い時、 自信のある時

「飼って下さい」と懇願す

近所の小学
生が一匹のピ
ーグル犬連れ
て来た。下校
する時に着い
てきたらし
い。日暮れに
なって犬を持
て余した三人
が、我が家へ
連れて来て

迷い犬猫の世話をしてい
る知り合いに相談。「イン
ターネットで貰い手を探す
から保護してやって」と言
われ、預かる事になった。
悪臭を放ち、体中の骨がレ
ントゲン写真が必要ない程
に皮膚にその形を突きだし
ている。ヨロけて石段をま
ともに登れない。猟犬がこ
れ程弱るとは、どれ位食べ

「ピー」と呼ばば即、寄
つて来た。座る、待つ、も
出来た。「グッド」と誉め
ると喜んだ。やがてキツイ
目も、まん丸い優しい目に
なった。雄犬の世界では、
高い位置にマーキングをす
る程「強くてエライ」とい

家の近くに、短い紐で繫
がれたままの中型犬が、放
心状態でした。
この犬を散歩させ始めて
一年程。犬も愛情を持って
撫でながら声を掛けてい
ると本当に愛くるしい表情へ
と変わっていく。

「コ」大切」と訳されたとい
う。
昔、キリストの教えが日
本に上陸した頃、聖書のい
う「愛」と言う後鳥羽の翻
訳に苦心したと聞いた。当
時の世の中では「エロス」
と受け取られる危険があ
り、苦心を重ねた上で「御
愛」と訳されたとい

「コ」大切」と訳されたとい
う。
昔、キリストの教えが日
本に上陸した頃、聖書のい
う「愛」と言う後鳥羽の翻
訳に苦心したと聞いた。当
時の世の中では「エロス」
と受け取られる危険があ
り、苦心を重ねた上で「御
愛」と訳されたとい

少々都合があり
まして、今号も私
で申し訳ありません
前号でアレルギー
の事を話させて
頂きましたが、今回
もその続きになり
ます。
数々のアレルギー
反応の中で、太
陽に当たると赤く
腫れて痛痒くなり
ボロボロが出来
ます。自分の汗に反
応して、体中に湿
疹が出る?これは
アセモ?いやアセ
モではないよう
で、以前皮膚科の
先生から「なるべ
く太陽に当たらな
いように、外に出る時は長
袖・帽子を着用するよう」
と言われました。特に夏は
其の反応が酷いです。だっ
たら日焼け止めを付ければ
いいのに・・・と思われるで

今、大相撲はこの問題で
存続が危ぶまれるほど揺れ
ているが、またまた「大山
鳴動ネズミ一匹」にならね
ばよいかとファンの人と
して懸念している。子供の
頃から兄弟でよく相撲を取
った。私は一番下で、上の
兄たちに全力でぶつかって
いった。当時は子供の好き
なものヒッグスリが
「巨人、大鵬、卵焼き」と
言われた時代だ。足腰の柔
軟な大鵬は憎らしいほど強
く、負けなかった。相撲で
大切な要素は強く柔軟な足
腰である。そして勝負で大
切なのは立ち会いである。

きく左右する。多くの相撲
が一分以内で勝負がつく。
大相撲の醍醐味はその一瞬
に精神を集中し、技能と頭
脳を駆使する真剣勝負にあ
る。見る者はそこに血湧き
肉躍り、手に汗握るのであ
る。真剣勝負と言え、今
でも語りぐさになっている
名勝負がある。巨漢高見山
と軽量の貴乃花の一番であ
る。

の先端がわずかに早く土俵
に付いたとして、重配差し
違えて高見山の勝ちとなっ
た。投げの打ち合いの際、
貴乃花は一切手を付かなか
ったため、鼻を土俵に強打
して出血していた。取組後

の取組では、土俵際の高
見山の左小投げと貴乃花
の右すくい投げの打ち合い
で、高見山の右手が先に落
ちたように見え、重配も貴
乃花が上がった。しかし物
言いがつき、貴乃花のマゲ

とも闘いの中で行われ、光に
照らされ、明るみに出され
ると都合が悪い。まさに聖
書が言っている「罪」の性
質そのものである。それが
なれ合いになって、悪いと
も思わない。たまたま現代
の利器、携帯電話のメール
が証拠になっただけで、昔
から口裏合わせ、あつんの
呼吸で了解済みの相撲は多
々あったであろう。

大関、十両陥落がかかっ
た相撲、七勝七敗勝ち越し
がかかった相撲、優勝がか
かった兄弟対決、同国人対
決など真剣勝負でない臭い
を感じてきたものだ。貴乃
花のように相撲取りである

という誇りを持って、どん
な時も真剣勝負をファンは
期待する。しかし、人間で
ある以上、金銭や情に流さ
れることもあるだろう。そ
の根底には人間として何を
基準にし、何を大切にす
るかが問われているのであ
る。つまり、すべては真実
な神が見ておられるとい
うこと、また相手に負けてや
ることが相手に大切にしてい
ることではないというこ
とだ。どんな状況であろう
と、全力を尽くして戦うこ
とこそ相手を大切に、尊
重することではないか。

間にと与えられた。律法は要
約すれば、心を尽くして神
を愛し、また自分を愛する
ように隣人を愛すること
である。律法は、この基準
に照らして生きることを我
らに要求すると共に、我ら
が不誠実で、失格者である
ことを突きつける。それに
対し、福音はただ一人キリ
ストがこの律法を完全に誠
実に生き、十字架の死にお
いて、失格者である我らの
罪の身代わりとなられ、そ
れによって我らを律法の真
実に生かすことが出来る方
であることを指し示す。こ
のキリストによって真実に
生かされるようではないか。

八百長相撲

紀南教会牧師 上山耕司